

美術学部 絵画科 油画専攻

養成人材およびカリキュラム編成の方針

絵画科油画専攻では、「絵を描く」ことの基礎を踏まえた、21世紀の現代に相応しい表現活動に挑戦する専門家の育成を目標としている。そのため、「絵を描く」という基礎的技術の修得だけでなく、映像、造形、インスタレーション、そしてそれらを横断する表現の創作研究を行いながら、多様なメディアにまで拡張された表現を学べるようなカリキュラム編成としている。

求める入学者像

- ・「絵を描く」という基礎を踏まえながら多元的表現活動に挑戦する者
- ・自己の創作研究活動を社会に向けて発信する者
- ・変化する世界の中でアートの実践を志す者

卒業認定・学位授与の方針

最終年次の「卒業制作」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を授与する。「卒業制作」の評価は、専任教員全員で卒業制作作品および自画像の審査・採点を行い、評価を決定する。

カリキュラム構成

【学部1・2年次（基礎課程）】

絵画表現の基礎的要素（イメージ・物質・行為・環境）を基盤として実技授業が組み立てられ、絵画表現の可能性を多角的に探求する。全員必修の「共通カリキュラム」と、教員の専門性に基づく「選択カリキュラム」が開設され、学部2年の学年末に基礎課程の最終課題として進級制作を提出。全教員が審査を行い、合格したものが3年次からの「専門課程」へ進級する。

【学部3・4年次（専門課程）】

学生個々の自主的な創作研究を中心とし、自己の表現とその方法論を展開し深めるための創作研究を行う。3・4年次では「A・B・C・D」の4コース制をとり、コース担当の教員によって、より実践的な専門実技指導を実施（希望者は版画実技を履修可能）。また3年次には、奈良・京都を中心とした古美術研究旅行があり、古典芸術と出会うことで新たな自己を発見する機会も設けられている。古典から現代にまで続く芸術表現の多様性に触れ、自己の資質を発見・開発し、独自の表現へと展開させていくことが学部4年間の課程に求められる。4年次の最後に「卒業制作」を提出し、審査の上学士号が与えられる。

教育目標

- ① 絵画とは何か。広い視野と体験を通し個々の土台を築く。
- ② 多様化する現代美術領域の基礎的な形式と方法を学ぶ。
- ③ 自己省察と社会的実践の可能性を探り、表現の独自性を確立する。

年次	科目		ディプロマポリシー	教育目標
1～4年次	必修科目	絵画造形実技Ⅰ～Ⅳ 版画実技Ⅰ～Ⅱ	1, 2, 3, 4, 5	①②③
3年次		古美術研究		
3年次		特別演習		
4年次		卒業制作		
4年次		自画像		
1～4年次	指定科目	日本美術史概説Ⅰ,Ⅱ 西洋美術史概説Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ 絵画技法史・材料論Ⅰ,Ⅱ	1, 2, 3, 4	①②③
1～4年次	選択科目	共通科目	1, 2, 3, 4	①②③